

ため池でオオクチバスの駆除を実施

11月2日鳥取市玉津の新堤で行われた「池干しによる外来魚駆除」に栽培漁業センターも参加しました。地元玉津地区の皆さんやNPOや自然保護グループ、県、市の担当者などが協働で駆除作業にとりかかりました。



図4 池水の排水（左）と流出防止ネット設置状況（右）

【 駆除に至った経緯 】

地元の方の話によれば「約10年前の改修工事時に池干しをしたときはバスは確認されず、フナ類やコイ、スジエビが多くとれ、地区の皆で分け合って食べた」とのこと。ところが、いつの間にかバスが入り、土日になると釣り人がやってきて、釣り糸やルアーを捨てたまま帰っていく状況が続いたそうです。このため、草刈り時に釣り糸が草刈機に絡んで作業が進まないといった状況が生じました。地区内では、バスを駆除すれば釣り人も減少し、草刈作業に支障を来すこともないだろう、という気運が高まりました。

【 採捕状況 】

池から下流への外来魚の流出を防ぐために、水路の3カ所に流出防止網を設置しました。

わずか1時間ほどで、池の水位が減少するとともに大量のバスが姿を現しました。子供達の歓声があがりバスを捕まえます。排水口部分にタモ網を設置したり、引き網を曳いてバスを取上げました。その結果、オオクチバス1,102個体（総重量：32.75kg）、トウヨシノボリ6個体（同：0.012kg）、スジエビ25個体、サワガニ、ヤゴ数個体で、魚類相は極めて単調でした。



図5 小型のバス（左）と僅かにとれたトウヨシノボリ（右）

オオクチバスは0歳魚や1歳魚と推定される小型個体が大半を占めましたが、最大のものは体長43cm（体重：1,76kg）でした。

体長約24cmのバスの胃内容物を調べたところ、体長約10cmの小型のバスが確認されました。



図6 バスの共食い

また、小型のバスの胃からはヤゴなどの水生昆虫が多数確認されました。



図7 小型のバスの胃内容物

このことから、オオクチバスは魚類やエビ類を食べつくしても、大型魚は共食いし、小型魚はため池へやってきて産卵を行う水生昆虫等を捕食して生き延びうるものと考えられました。バスの問題点はバランスを崩して増えすぎることにあります。地元の方が「やっぱりフナ、コイはいなかったか・・・」と呟かれたのが印象に残りました。

【 駆除したバスを試食 】

作業後は参加者全員で駆除したバスの試食会を開きました。特に好評だったのが、バター焼きとから揚げです。あっという間になくなってしまいました。



図8 バスの試食会